

序

臨床研修制度が変更されて10年以上が経過した。筆者と比べると、現在の若手医師たちのプライマリ・ケアに関する知識や技術は高く、筆者の施設では彼らが大活躍してくれている。一方、研修内容が広く浅い範囲であることや、指導の中心が専門医であったことから、知識や技術、使用する器具の概念や名称が必ずしも標準化されていたとは限らない。必修化される前の臨床研修制度の時代に外科的手技の訓練を受けた筆者も、小外科のちょっとした道具類のわずかな違いを理解できずに、診療所勤務のところに独り悩みながら処置を行った。

本書ではプライマリ・ケアやERで汎用される小外科道具の使い分けの整理を第一の目的とし、加えて蘇生治療（ICLSの範囲）で使用される道具、看護師さんたちと協働して使用する道具を取り上げ、名称や類似器具の使い分けにあたっての考え方を整理した。対象読者は、研修医や医学生、入職したての看護師やメディカルスタッフ、消防職員などを想定している。目の前の道具の使い方がわからないとき、指導者に言われて何の道具かわからないときなどにご活用いただきたい。

なお、本書の執筆はこれから日本の医療の中心を担っていくような若手中堅スタッフに依頼した。初めて執筆を経験した筆者も多く、内容にご満足いただけない読者もおられるかもしれないが、今後の医療の発展をめざした試みとご理解いただき、ご容赦願いたい。

本書の内容は今までにない視点で道具を整理しており標準化が難しい分野だが、文献や歴史を紐解きながらなるべく一般化したつもりである。過不足や編者の誤解などお気づきの点があればぜひご指摘いただき、本書のさらなる発展へご協力をお願いしたい。

最後に、本書作成にあたり、資料の少ないなか奮闘しながら執筆してくれた仲間たち、本書作成の機会をくださった箕輪良行先生と羊土社の嶋田達哉さん、遅れる校正を気長に待ってくださった羊土社の林 理香さんに深謝いたします。

2015年8月

編者を代表して
野村 悠